

# 精神医学

## 1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	4 人	(2 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	3 人	
研修医	2 人	
特任研究員	4 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	20 人	

## 2 教員の異動状況

森 則夫（教授）	（平成 8 年 4 月 1 日 ～ 現職）
中村和彦（准教授）	（平成 14 年 7 月 1 日 ～ 平成 24 年 12 月末日退職）
岩田泰秀（講師）	（平成 19 年 4 月 1 日 ～ 現職）
竹林淳和（講師）	（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）
和久田智靖（助教）	（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 現職）
牧原健（助教）	（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 9 月末日退職）
中里一貴（助教）	（平成 24 年 10 月 1 日 ～ 現職）
横倉正倫（助教）	（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 現職）
栗田大輔（助教）	（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）
黄 天寧（医員）	（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 現職）
青山美紗子（医員）	（平成 24 年 1 月 1 日 ～ 現職）
鹿子恵美（医員）	（平成 24 年 10 月 1 日 ～ 現職）
望月裕季（医員）	（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 2 月末日退職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	18 編	(8 編)

そのインパクトファクターの合計	52.53
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	1 編 (1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	0 編 (0 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	3 編 (2 編)
そのインパクトファクターの合計	4.1

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Thanseem I, Anitha A, Nakamura K, Suda S, Iwata K, Matsuzaki H, Ohtsubo M, Ueki T, Katayama T, Iwata Y, Suzuki K, Minoshima S, Mori N. Elevated transcription factor Sp1 in autism brains alters the expression of autism candidate genes. Biol Psychiat 71:410-418; 2012  
【精神医学】 (Equal contribution with 1st author) [Genetics and Molecular Biology] [IF 8.283]
2. 中村和彦, 大西将史, 内山敏, 竹林淳和, 二宮貴至, 鈴木勝昭, 辻井正次, 森則夫. 【おとなの ADHD 臨床 I】おとなの ADHD の疫学調査. 精神科治療学, 28(2): 155-162, (2013.02)
3. 中村和彦. 【大人の発達障害-わかっていること・できることをいま整理する-】大人の ADHD の診断. 治療, 94(8): 1382-1386, (2012.08)
4. 望月洋介, 星野良一, 井上淳, 大隅香苗, 後藤知子, 大城将也, 高貝就, 岩田泰秀, 森則夫. 重症強迫性障害の症例に対する治療的関与の工夫曝露反応妨害法と修正森田療法併用の治療効果についての検討. 日本森田療法学会雑誌, 23(2): 143-154, (2012.10).
5. 森則夫. 【発達障害とアタッチメント障害】精神障害の予防は可能か?自閉症・統合失調症の早期診断と早期介入. 小児の精神と神経, 52(2): 116-124, (2012.06)
6. 森則夫. 子どものこころを考える (分子脳機能から発達障害まで) 自閉症の PET 研究. 脳 21. 15(2): 222-223, (2012.04)

インパクトファクターの小計 [8.283]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suzuki K, Sugihara G, Ouchi Y, Nakamura K, Futatsubashi M, Takebayashi K, Yoshihara Y, Omata K, Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N. Microglial activation in young adults with autism spectrum disorder. JAMA Psychiatry. 70(1):49-58, Mar 2013 【精神医学】 [12.0]
2. Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Yagi A, Inada N, Kuroda M, Inokuchi E, Koyama T, Kamio Y, Tsujii

- M, Sakai S, Mohri I, Taniike M, Iwanaga R, Ogasahara K, Miyachi T, Nakajima S, Tani I, Ohnishi M, Inoue M, Nomura K, Hagiwara T, Uchiyama T, Ichikawa H, Kobayashi S, Miyamoto K, Nakamura K, Suzuki K, Mori N, Takei N. Reliability and validity of autism diagnostic interview-revised, Japanese version. *J Autism Dev Disord.* 43(3):643-62, 2013 【精神医学】 [3.34]
3. Tsuchiya KJ, Tsutsumi H, Matsumoto K, Takei N, Narumiya M, Honda M, Thanseem I, Anitha A, Suzuki K, Matsuzaki H, Iwata Y, Nakamura K, Mori N; H. B. C. Study Team. Seasonal variations of neuromotor development by 14 months of age: Hamamatsu Birth Cohort for mothers and children (HBC Study). *PLoS One.* 7(12):e52057, 2012 【精神医学】 [4.1]
  4. Anitha A, Nakamura K, Thanseem I, Yamada K, Iwayama Y, Toyota T, Matsuzaki H, Miyachi T, Yamada S, Tsujii M, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Suzuki K, Ichikawa H, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N. Brain region-specific altered expression and association of mitochondria-related genes in autism. *Mol Autism.* 3(1):12, 2012 【精神医学】 [5.33]
  5. Anitha A, Nakamura K, Thanseem I, Matsuzaki H, Miyachi T, Tsujii M, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Mori N. Downregulation of the expression of mitochondrial electron transport complex genes in autism brains. *Brain Pathol.* 2013 May;23(3):294-302. 【児童精神医学】 [6.6]
  6. Iwata K, Izumo N, Matsuzaki H, Manabe T, Ishibashi Y, Ichitani Y, Yamada K, Thanseem I, Anitha A, Vasu MM, Shimmura C, Wakuda T, Kameno Y, Takahashi T, Iwata Y, Suzuki K, Nakamura K, Mori N. Vldlr overexpression causes hyperactivity in rats. *Mol Autism.* 3(1):11, 2012 【精神医学】 [5.33]
  7. Takahashi S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Suzuki K, Mori N, Takei N; HBC Study Team. Psychosocial determinants of mistimed and unwanted pregnancy: the Hamamatsu Birth Cohort (HBC) study. *Matern Child Health J.* 16(5):947-55, 2012 【精神医学】 [2.243]
  8. Shimmura C, Suzuki K, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Ohno K, Matsuzaki H, Iwata K, Kameno Y, Takahashi T, Wakuda T, Nakamura K, Hashimoto K, Mori N. Enzymes in the glutamate-glutamine cycle in the anterior cingulate cortex in postmortem brain of subjects with autism. *Mol Autism.* 4(1):6, 2013 【児童精神医学】 [5.3]
  9. 内山敏, 大西将史, 中村和彦, 竹林淳和, 二宮貴至, 鈴木勝昭, 辻井正次, 森則夫. 日本における成人期 ADHD の疫学調査－Adult ADHD Self Report Scale-Screener (ASRS-Screener) 陽性群の特長について－. *子どものこころと脳の発達* 3: 23-33, 2012. 【精神医学】 [-]
  10. 内山敏, 大西将史, 中村和彦, 竹林淳和, 二宮貴至, 鈴木勝昭, 辻井正次, 森則夫. 日本

における成人期 ADHD の疫学調査—成人期 ADHD の有病率について—. 子どものこころと脳の発達 3: 34-42, 2012. 【精神医学】 [-]

11. 伊藤大幸, 谷伊織, 行廣隆次, 内山登紀夫, 小笠原恵, 黒田美保, 稲田尚子, 萩原拓, 原幸一, 岩永竜一郎, 井上雅彦, 村上隆, 染木史緒, 中村和彦, 杉山登志郎, 内田裕之, 市川宏伸, 田中恭子, 辻井正次. 日本版 Vineland-II 適応行動尺度の開発不適応行動尺度の信頼性・妥当性に関する報告. 精神医学, 54(9): 889-898, (2012.09)

インパクトファクターの小計 [44.243]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
  1. Takata A, Iwayama Y, Fukuo Y, Ikeda M, Okochi T, Maekawa M, Toyota T, Yamada K, Hattori E, Ohnishi T, Toyoshima M, Ujike H, Inada T, Kunugi H, Ozaki N, Nanko S, Nakamura K, Mori N, Kanba S, Iwata N, Kato T, Yoshikawa T. A population-specific uncommon variant in GRIN3A associated with schizophrenia. Biol Psychiatry. 73(6):532-9 2013 【精神医学】 [-]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

## (2-2) レター

## (3) 総説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
  1. 伊熊正光, 鈴木勝昭, 土屋賢治, 中村和彦, 辻井正次, 森則夫. 高機能自閉症スペクトラム障害者における脳内コリン系の異常. 子どものこころと脳の発達 3:17-22, 2012.
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

## (4) 著書

## (5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
  1. 和久田智靖, 栗田大輔, 高貝就, 岩田泰秀, 森則夫: 作話に基づいて放火に至った統合失調症の1症例. 精神科 20(5): 529-534, 2012. 【精神科】 [IF:0]
  2. 栗田大輔, 和久田智靖, 高貝就, 高橋幸利, 森則夫, 抗 NMDA 受容体脳炎の後, 複雑な経過を辿った高機能自閉性障害の一例, 子どものこころと脳の発達, 3, 106-112, 2012, 【精神医学】、[0]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
  1. Takagai S, Nakasato K, Suzuki K\*, Kasai E, Isogai S, Morimoto S, Mori N. Improvement in intractable tardive dystonia in bipolar disorder after aripiprazole treatment: a case report. J Clin Psychopharmacol. 2012 Aug;32(4):563-4, 2012 【精神医学】 [4.1]

インパクトファクターの小計 [4.1]

#### 4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	2 件

1. 登録番号：2013-030686

出願名称：自閉症診断支援方法およびシステム並びに自閉症診断支援装置

発 明 者：森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江、桜井敬久、徳谷恵樹

出 願 人：国立大学法人 浜松医科大学

登 録 日：2013 年 2 月 20 日

2. 登録番号：PCT/JP2013/056919

出願名称：自閉症診断支援方法およびシステム並びに自閉症診断支援装置

発 明 者：森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江、桜井敬久、徳谷恵樹

出 願 人：国立大学法人 浜松医科大学

登 録 日：2013 年 3 月 13 日

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	16 件 (5,970 万円)
(2) 厚生科学研究費	2 件 ( 170 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 ( 0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 ( 0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	4 件 ( 155 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 ( 0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 森 則夫：脳科学研究戦略推進プログラム<課題F>：精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究「自閉症の病態研究と新たな診療技法（診断・予防・治療）の開発」H23～H27 年度, H24 年度, 平成 24 年度：3,900 万円（総額 1 億円）
2. 森 則夫：学術振興会科研費 基盤 B(継続), 自閉症の生物学的早期診断法の開発に関する研究, H22-24 年度, H24 年度：110 万円（総額 1480 万円）
3. 森 則夫：学術振興会科研費 挑戦的萌芽(継続),末梢血質量分析と臍帯出血性コホートの連携による自閉症診断マーカーの検索, H23-24 年度, H24 年度：140 万円（総額 280 万円）
4. 中村和彦：文部科学省科学研究費 基盤 B(継続),「脳画像解析と CNV 解析の融合による孤発性自閉症と家族性自閉症の病態解明」, H23-25 年度, H24 年度：540 万円（総額 1480 万円）
5. 岩田泰秀：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「先端神経画像法を駆使したアルコール性前頭葉傷害発生機構の解明」, H22-24年度, H24年度：80万円（総額330万円）
6. 竹林淳和：文部科学省科学研究費 基盤C(新規),「ADHDのドパミンD1受容体とミクログリアの定量解析-PETによる病態解明-」, H24-26年度, H24年度：150万円（総額400

万円)

7. 和久田智靖：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「アルコール依存症者の中樞神経障害に対する脳由来神経栄養因子遺伝子多型の関与」,H22-24年度,H24年度：110万円(総額340万円)
8. 横倉正倫：文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援(新規),「摂食障害者脳における新規トレーサーを用いたPET研究 活性化ミクログリアの検討」,H24-H25年度,H24年度120万円(総額230万円)
9. 高貝 就：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「自閉症における記憶再構築障害とドーパミン放出との関連の脳画像的解析」,H22-24年度,H24年度：100万円(総額330万円)
10. 大城将也：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「In vivo cross-link法による治療抵抗性うつ病関連蛋白質の検索」,H22-24年度,H24年度：120万円(総額340万円)
11. 吉原雄二郎：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「成人自閉症の脳内グルタミン酸研究—3T MRSを用いた検討」,H22-24年度,H24年度：20万円(総額370万円)
12. 藤田 梓：文部科学省科学研究費 基盤C(継続),「前方視的研究による広汎性発達障害の早期徴候と支援導入ポイントの検討」,H22-24年度,H24年度：110万円(総額340万円)
13. 後藤知子：文部科学省科学研究費 若手研究B(継続),「バーチャルリアリティ・テストによる自閉症スペクトラムの感情認知計測と教育への対応」,H21-23年度,H24年度：60万円(総額320万円)
14. 井上 淳：文部科学省科学研究費 若手研究B(新規),「強迫性障害を対象とした症状ディメンションに基づいた治療戦略」,H24-26年度,H24年度：120万円(総額270万円)
15. 大隅香苗：文部科学省科学研究費 若手研究B(新規),「気分変調性障害に対する行動活性化療法の効果検討」,H24-H25年度,H24年度：150万円(総額260万円)
16. 豊田志保：文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽(新規),「自閉症スペクトラム障害者の感覚過敏に果たす脳幹のミクログリア活性化の役割」,H24-H25年度,H24年度：140万円(総額290万円)

(2) 厚生科学研究費

1. 森 則夫(分担)：厚生労働科学研究費助成金(医療技術実用化総合研究事業),「治療抵抗性統合失調症に対する抑閑散の有用性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験」,H22-24年度,(H22-臨研推一般-012),代表研究者：堀口淳(島根大学),平成24年度分担額130万円(H24年度総額6,240万円)
2. 岩田泰秀(分担)：厚生労働科学研究費助成金(障害者対策総合研究事業(精神障害分野))「治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究」,H22-24年度,(H22-精神-一般-010),代表研究者：三國雅彦(群馬大学),平成24年度分担額40万円(H24年度総額1,210万円)

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

1. 受託研究（製造販売後調査等）442、クロザリル錠 25mg、100mg 特定使用成績調査、ノバルティスファーマ(株)、平成 22 年 1 月 15 日～平成 25 年 12 月 31 日、森則夫、30 万円（4 年間で 815,100 円）
2. 受託研究（製造販売後調査等）509、サインバルタカプセル長期使用に関する特定使用成績調査、塩野義製薬(株)、平成 23 年 6 月～平成 25 年 6 月 30 日、森則夫、15 万円（2 年間で 214,500 円）
3. 受託研究（治験）510、JNS001（メチルフェニデート塩酸塩徐放錠）の成人注意欠陥／多動性障害（AD/HD）患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験、ヤンセンファーマ(株)、平成 23 年 6 月～平成 25 年 3 月 31 日、中村和彦、702,000 円（2,311,826 円）
4. 受託研究（治験）511、JNS001（メチルフェニデート塩酸塩徐放錠）の成人注意欠陥／多動性障害（AD/HD）患者を対象とした長期投与試験、ヤンセンファーマ(株)、平成 23 年 7 月～平成 25 年 12 月 31 日、中村和彦、396,000 円（1,612,853 円）

## 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	3 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	2 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

中村和彦：Microglial Activation in Adults with Autism Spectrum Disorders, IMFAR2012 17-19  
May 2012 Toronto

ポスター発表

和久田智靖：Alteration of Several Schizophrenia Candidate Genes Expression in Medial Prefrontal Cortex in Perinatal Asphyxia Rodent Model, 3<sup>rd</sup> Schizophrenia International Research Society Conference. 14-18 April 2012 France

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
  1. 和久田智靖:統合失調症動物モデルとしての低酸素仮死ラットの遺伝子発現量の検討、  
精神神経系薬物治療研究報告会、平成 24 年 12 月、大阪
- 4) 座長をした学会名
  1. 森 則夫:浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座第 1 回、平成 24 年 7 月 15-16 日、  
浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座第 2 回平成 25 年 1 月 13-14 日
  2. 中村和彦:第 1 回静岡県こどもの精神保健フォーラム、平成 24 年 6 月 17 日

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 森 則夫:日本脳科学会:理事長  
森 則夫:日本精神科救急学会:理事  
森 則夫:日本生物学的精神医学会:評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

- (1) 国内の英文雑誌等の編集
- (2) 外国の学術雑誌の編集
- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー
  1. Biological Psychiatry (USA), 1 回
  2. American J Med Genetics B (USA), 1 回
  3. Psychiatry Research (USA), 1 回
  4. Psychiatry and Clinical Neurosciences (Japan), 2 回

## 9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	1 件
(3) 学内共同研究	3 件

- (1) 国際共同研究
  1. 構造 MRI を用いた自動診断システムの開発、IoP (Institute of Psychiatry、ロンドン大学、イギリス)、平成 21 年度～、国際共同研究
- (2) 国内共同研究
  1. 理化学研究所、大阪大学、金沢大学、中京大学との子どものころに関する共同研究
    - ① 自閉症の臨床遺伝



② 脳画像

③ 疫学研究 他

(3) 学内共同研究

1. 分子イメージング先端研究センターヒトイメージング、尾内康臣教授との PET 研究
2. 解剖学講座、佐藤康二教授との自閉症モデル動物に関する研究
3. 光量子医学研究センター光環境医学研究分野、篠島伸生教授との自閉症のチップ解析研究

## 10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	件

## 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

## 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

## 15 新聞，雑誌等による報道

1. 『視線の動き捉え自閉症早期発見「診断支援装置の開発進む」』静岡新聞、平成 24 年 5 月 15 日
2. 『「子育てで発達障害予防」国会議員が勉強会』朝日新聞、H24 年 6 月 29 日
3. 浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座第 1 回 「経症や発達障害症状を例に紹介」中日新聞、平成 24 年 7 月 16 日
4. 浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座第 1 回 「ストレスによる病の治療法紹介」静岡新聞、平成 24 年 7 月 17 日
5. 平成 24 年 11 月 26 日、文部科学省記者クラブにて発表。「自閉症の脳内ではミクログリアが過剰に活性化している」という内容。毎日、共同通信、インターネットなど多数のメディアにて報道された。(関連新聞記事)
6. 米国オンライン速報 Archives of General Psychiatry、平成 24 年 11 月 26 日
7. 「脳の免疫細胞過剰に」静岡新聞、平成 24 年 11 月 27 日
8. 「自閉症の人の脳細胞が過剰作用」中日新聞、平成 24 年 11 月 27 日
9. 「自閉症 脳内で免疫細胞活性化」毎日新聞、平成 24 年 11 月 27 日
10. 「自閉症、脳の免疫細胞が過剰に 浜松医大研究チーム」河北新報 web サイト、平成 24 年 11 月 27 日
11. 「浜松医科大など、自閉症患者の脳内にミクログリア過剰活性化-病態解明に光」日刊工業

新聞 web サイト、平成 24 年 11 月 27 日

12. 「自閉症：脳内で免疫細胞活性化 浜松医大など確認、活動抑制で治療に道」毎日 jp web サイト、平成 24 年 11 月 27 日
13. 「自閉症の人の脳、神経修復関連の細胞増加を確認」読売新聞 web サイト、平成 24 年 11 月 27 日
14. 『自閉症者の脳内で 「ミクログリアが過剰に活性化」』科学新聞、平成 24 年 12 月 7 日